

日本の医療 意見交換

インドネシア人看護師 来日医師らと

山科の病院

京都市山科区の洛和会音羽病院で働くインドネシア人看護師の元を26日、同国の研究者や医師計4人が訪れ、両国の医療の現状について意見交換した。

看護師はフェータ・エカ・プルタンティさん(30)。経済連携協定(EPA)に基づいて来日し、今春、京滋で初めて国家試験に合格した。同病院では、

母国での看護師経験を生かして2010年から看護助手として働き、現在は回復期リハビリテーション病棟を担当している。

公衆衛生学や精神科の研究者らは医療事情を視察するため来日中で、フェータさんや同病院の医師らと面会。両国の病院設備や医療費について話した。

研究者らは「充実した日本の小児医療が印象的だった」と述べた。フェータさんは「日本の皆保険制度はインドネシアの参考になる」とし、「いろいろな病棟を経験して技術を磨きたい」と話した。

(今野麦)



インドネシアの研究者らと医療の現状について話すフェータさん(右)＝京都市山科区・洛和会音羽病院